

企業ニュース 日本電産

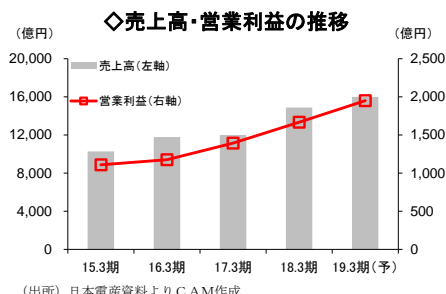
(東証1部：6594) <http://www.nidec.com/ja-JP/>

作成者：村上大志

車載向けに注力し、売上高2兆円を目指す

1973年、設立。世界シェア80%のHDD用モータを筆頭に、「省エネ・長寿命・低騒音」という特性を持つブラシレスDCモータを中心に事業を展開する。「世界No. 1」を追求するというアイデンティティの下、海外代理店網の展開、精密小型モータにおける数々の技術革新、積極的なM&A等で事業を拡大してきた。特にM&Aを成長の原動力として戦略的に活用、国内外で60社以上のM&Aを実施し、買収後のマネジメント力も非常に高い。中期戦略目標

「Vision2020」では、21.3期の連結売上高2兆円（新規M&A約5,000億円含む）のうち車載売上高7,000億円～1兆円、連結営業利益率15%以上、ROE18%以上を目標に掲げる。



(出所) 日本電産資料よりCAM作成

収益性の改善が進む

19.3期・第2四半期累計（4-9月期）の連結業績は売上高が7,776億円、前年同期比9%増、営業利益が982億円、同20%増。HDD用モータはPC向けが減少も、クラウドの利用増加でニアラインドライブ向けが伸長した。車載向けではEPS（電動パワーステアリング）用モータやEV・PHEV用のトラクション（駆動部）用モータの売上が順調に拡大した。営業利益率は12.6%、同1.2ポイント改善。車載や家電・商業・産業用の増収効果が寄与した。

19.3期の通期会社計画は売上高が1兆6,000億円、前期比8%増、営業利益が1,950億円、同17%増。貿易摩擦の影響でトップラインの伸び率鈍化には留意が必要だが、収益性の改善は順調に進んでいる。車載向けで単価の高いパワートレイン用のトラクション用モータの販売が増加していることや、IoT化の進展で冷却ファンの需要拡大が継続している。世界経済の鈍化や米中の貿易摩擦の長期化が懸念され事業環境に不透明感が出てきているが、同社は逆境時に買収や積極投資などを行い事業拡大に成功してきた。足元の事業環境をビジネスチャンスと捉えており、M&Aや設備投資の増強、積極的な人材採用など次の一手に期待感が高まろう。

[株価動向・投資判断]

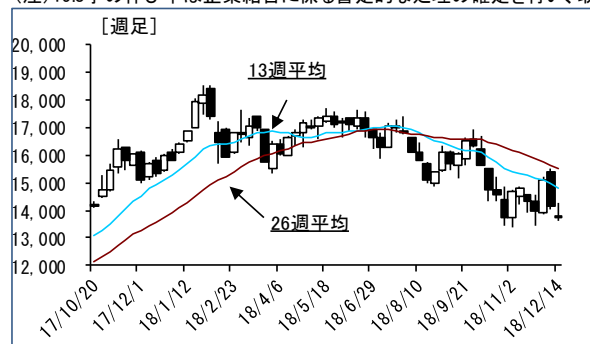
為替前提は1米ドル=100円、1ユーロ=125円と保守的な計画に変更はない。増収効果や生産性向上で利益率も上昇しており、会社計画の上振れに期待したい。

<6594 日電産 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	1,199,311 (2)	139,366 (18)	141,313 (21)	111,007 (23)	374.3	85.00
18.3	1,488,090 (24)	167,637 (20)	164,460 (16)	131,434 (18)	443.9	95.00
19.3 予	1,600,000 (8)	195,000 (17)	187,500 (15)	147,000 (12)	498.6	105.00

(注)19.3予の伸び率は企業結合に係る暫定的な処理の確定を行い、取得原価の当初配分額の見直しで反映された後の金額で算出。



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2018/12/14)	13,800 円
年初来高値(高値日)	18,525 円(18/1/25)
同 安値(安値日)	13,370 円(18/10/30)
予想PER(19.3予)	27.6 倍
1株株主資本(PBR算出用)	3,434.8 円
PBR	4.02 倍
予想配当利回り	0.76 %
(1株当たり配当金105.00円)	
ROE(18.3)	14.8 %
発行済み株式数	29,814 万株